

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第46週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (46 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 6 例。
- 3 類感染症：報告なし。4 類感染症：レジオネラ症 1 例。
- 5 類感染症：後天性免疫不全症候群 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	80 歳代	男	肺結核	—
			80 歳代	女	肺結核	呼吸困難
		都城	70 歳代	女	肺結核	咳
			70 歳代	女	肺結核	—
		日南	80 歳代	男	疑似症患者	発熱、呼吸困難
			高鍋	80 歳代	男	疑似症患者
4類	レジオネラ症	宮崎市	60 歳代	男	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	30 歳代	男	AIDS	指標疾患:原発性脳リンパ腫
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60 歳代	女	患者	頭痛、発熱、嘔吐、意識障害、項部硬直、菌血症 ワクチン接種歴不明

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

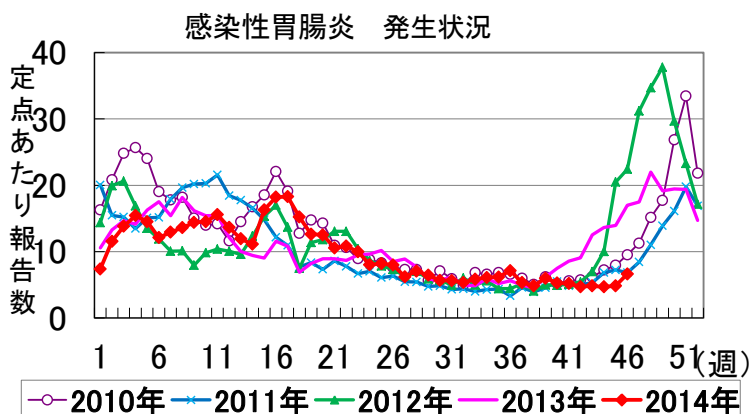
・定点医療機関からの報告総数は 541 人 (定点あたり 16.5) で、前週比 133%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

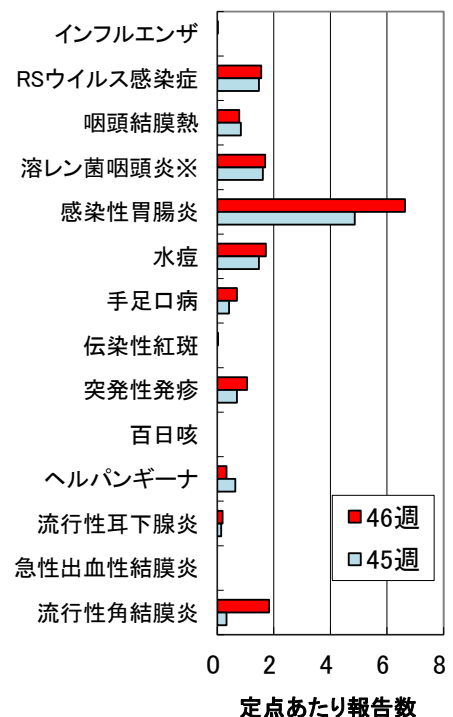
【感染性胃腸炎】

・報告数は 239 人 (6.6) で、前週比 137%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値* (12.6) の約 0.5 倍であった。年齢別では 1~3 歳が全体の約 4 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値



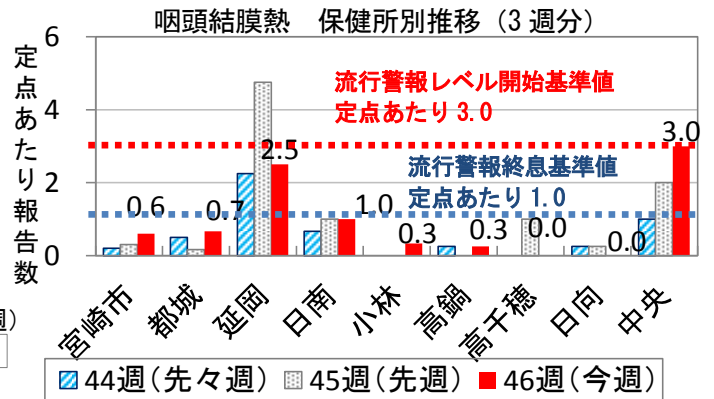
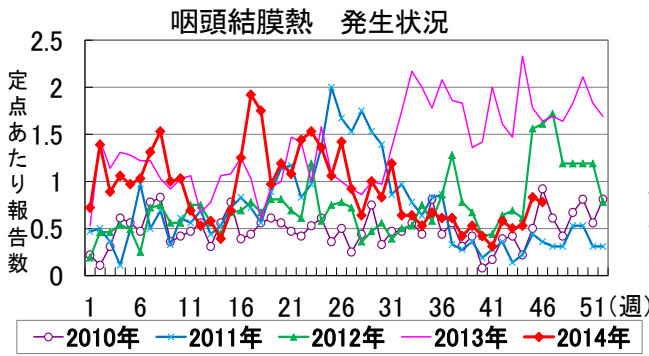
《前週との比較》



※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

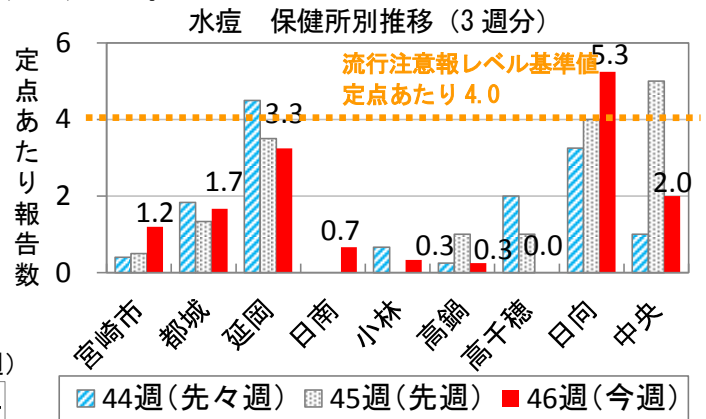
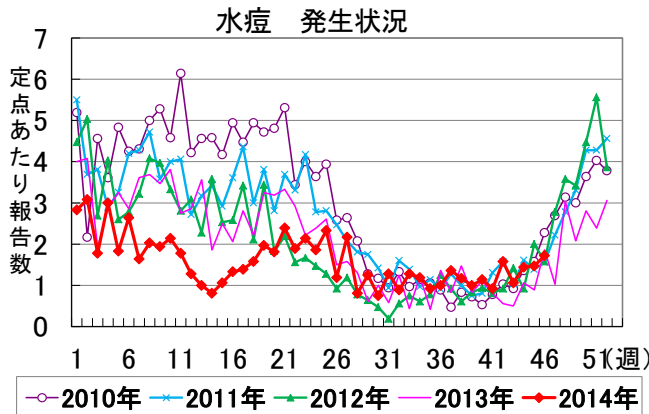
【咽頭結膜熱】

・報告数は28人(0.78)で、前週比93%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*(0.89)の約0.9倍であった。中央(3.0)保健所からの報告が多く、年齢別では1歳が約4割を占めた。



【水痘】

・報告数は62人(1.7)で、前週比117%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*(1.9)の約0.9倍であった。年齢別では1~2歳が全体の約6割を占めた。



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	なし
日南	なし
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	水痘(5.3)
中央	咽頭結膜熱(3.0)

* 流行警報レベル開始基準値*

・咽頭結膜熱(3.0)

* 流行注意報レベル基準値*

・水痘(4.0)

□ 病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成26年11月17日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
Salmonella Mbandaka (O7:z10:e,n,z15)	0~4	男	2014.10.20	サルモネラ腸炎	便	2014.10.29
EHEC(O157:H7 VT1.2)	5~9	男	2014.10.29	胃腸炎、下痢、血便	便	2014.11.6
Mycoplasma pneumoniae	10歳代	男	2014.11.7	レジオネラ肺炎疑、発熱(40.2℃)、口内炎、下気道炎、肺炎、肝機能障害	喀痰	2014.11.13
Salmonella IIIb群	40歳代	女	2014.11.1		便	2014.11.14

○レジオネラ肺炎疑いの10代後半男性から *Mycoplasma pneumoniae* が検出された。IASR (病原微生物検出情報) Vol.28 No.2によると、マイコプラズマ肺炎は一般に予後良好な経過をとることが多いが、呼吸不全などを呈する重症、劇症型は小児より成人、高齢者に多くみられ、小児領域以外の年齢層でも注意すべき呼吸器感染症の一つとなっている。また、*M. pneumoniae* の検査法として種々の血清診断法があるが、寒冷凝集反応はIgM抗体を検出するものの特異性が低く、IgG抗体を検出する補体結合反応は早期診断に適さないことから、ともに使われなくなりつつある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状 等	検出材料	検出日
コクサッキーA4	1	男	2014.08.05	ヘルパンギーナ、上気道炎、胃腸炎(下痢)	咽頭ぬぐい液	2014.11.07
コクサッキーA4	5	女	2014.08.05	エンテロウイルス感染症疑い、水疱、発疹、四肢の筋力低下、38.5℃	咽頭ぬぐい液	2014.11.07
			2014.08.06		髄液	
コクサッキーA4	1	男	2014.08.08	急性脳症、下気道炎(気管支炎)、胃腸炎(下痢)、熱性けいれん、意識障害、肝機能障害、39℃	便、髄液	2014.11.07
コクサッキーB5	2ヶ月	男	2014.09.05	ウイルス性髄膜炎(コクサッキー、ヘルペス疑い)、上気道炎(咽頭炎)、大泉門膨隆、38.8℃	髄液	2014.11.17
ライノウイルス	10ヶ月	男	2014.10.29	気管支喘息、下気道炎(気管支炎)、38.6℃	咽頭ぬぐい液	2014.11.12
ライノウイルス	2ヶ月	女	2014.11.10	気管支炎、下気道炎	咽頭ぬぐい液	2014.11.12

○ヘルパンギーナと診断された乳児、エンテロウイルス感染症疑いの小児、脳症と診断された小児の計3名からコクサッキーA4が分離された。

○ウイルス性髄膜炎疑いの乳児からコクサッキーB5が分離された。コクサッキーウイルスをはじめとするエンテロウイルス属は、便中へのウイルス排泄が長期間続く場合が多く、症状が消失した後も2~4週間にわたり感染源になるため、感染拡大防止対策が必要である。

○下気道炎(気管支炎)を呈する乳児2名からライノウイルスが検出された。ライノウイルスは普通感冒の病因ウイルスとして知られ、症状は軽く一般的には数日で軽快する。その一方で小児の喘息・喘鳴の増悪の60~70%に本ウイルスが関与しているとの報告もある。今回の症例のうち1名も気管支喘息を有している。喘息の既往がある場合は特に本ウイルスの感染に注意する必要がある。

📊 全国第45週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第45週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	325例				
3類感染症	細菌性赤痢	3例	腸管出血性大腸菌感染症	38例		
4類感染症	A型肝炎	1例	チクングニア熱	1例	つつが虫病	6例
	デング熱	2例	日本紅斑熱	2例	マラリア	2例
	レジオネラ症	15例	レプトスピラ症	1例		
5類感染症	アメーバ赤痢	10例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	11例	急性脳炎	3例
	クリプトスポリジウム症	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例	後天性免疫不全症候群	11例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性髄膜炎菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	19例
	水痘(入院例)	2例	梅毒	13例	播種性クリプトコックス症	1例
	破傷風	1例	風しん	2例	麻しん	1例

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関あたりの患者報告総数は前週比96%とほぼ横ばいであった。今週増加した疾患はインフルエンザと水痘で、減少した主な疾患は手足口病とヘルパンギーナであった。

RSウイルス感染症の報告数は3,343人(1.1)で、前週比97%とほぼ横ばいであった。鳥取県(3.5)、山形県(3.3)、島根県(3.2)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月~1歳が全体の約6割を占めた。

水痘の報告数は3,042人(0.97)で、前週比115%と増加した。新潟県・長野県(2.1)、青森県・山形県・福井県(1.6)からの報告が多く、年齢別では1~4歳が全体の約6割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第46週(11月10日～11月16日)

疾病名		第45週	第46週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.02	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	53	56	14	16	11	6		3		6	
	定点あたり	1.47	1.56	1.40	2.67	2.75	2.00	0.00	0.75	0.00	1.50	0.00
咽頭結膜熱	報告数	30	28	6	4	10	3	1	1			3
	定点あたり	0.83	0.78	0.60	0.67	2.50	1.00	0.33	0.25	0.00	0.00	3.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	58	61	25	4	14	4	2	6	1	5	
	定点あたり	1.61	1.69	2.50	0.67	3.50	1.33	0.67	1.50	1.00	1.25	0.00
感染性胃腸炎	報告数	175	239	45	36	9	36	54	19	2	34	4
	定点あたり	4.86	6.64	4.50	6.00	2.25	12.00	18.00	4.75	2.00	8.50	4.00
水痘	報告数	53	62	12	10	13	2	1	1		21	2
	定点あたり	1.47	1.72	1.20	1.67	3.25	0.67	0.33	0.25	0.00	5.25	2.00
手足口病	報告数	15	25	1	18	5	1					
	定点あたり	0.42	0.69	0.10	3.00	1.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
伝染性紅斑	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	25	38	11	5	3	5	5	3		5	1
	定点あたり	0.69	1.06	1.10	0.83	0.75	1.67	1.67	0.75	0.00	1.25	1.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	23	12	4	1	1	3	2			1	
	定点あたり	0.64	0.33	0.40	0.17	0.25	1.00	0.67	0.00	0.00	0.25	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	5	7	1	3	1			1			1
	定点あたり	0.14	0.19	0.10	0.50	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	2	11	10		1						
	定点あたり	0.33	1.83	3.33	0.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2014年第1週～46週)

2類感染症	結核	221例(6)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	27例				
4類感染症	E型肝炎	3例	A型肝炎	15例	重症熱性血小板減少症候群	11例
	つつが虫病	7例	日本紅斑熱	5例	ボツリヌス症	1例
	レジオネラ症	13例(1)				
5類感染症	アเมอร์バ赤痢	5例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム腸内細菌感染症	3例
	急性脳炎	5例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例
	後天性免疫不全症候群	12例(1)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	11例(1)
	梅毒	10例	破傷風	1例	風しん	3例
	麻しん	4例				

()内は今週届出分、再掲

感染症流行予測調査事業の一環として、2014/2015 年のインフルエンザ流行シーズン前における県内の抗体保有状況調査を宮崎県健康づくり協会および県立宮崎病院の協力を得て実施した。

調査では、9 年齢群・252 名 (0~4 歳 : 39 名、5~9 歳 : 19 名、10~14 歳 : 26 名、15~19 歳 : 25 名、20~29 歳 : 42 名、30~39 歳 : 25 名、40~49 歳 : 25 名、50~59 歳 : 25 名、60 歳以上 : 26 名) から同意を得て、2014 年 7 月 3 日から 9 月 17 日に収集した血清を対象とした。また、下記の 4 抗原 (1, 2, 3 は今シーズンのワクチン株) を用い、赤血球凝集抑制抗体 (HI 抗体) 価の測定を行なった。

1. A パンデミック型 : A/California (カリフォルニア) /7/2009 (H1N1) pdm09
2. A 香港型 : A/New York (ニューヨーク) /39/2012 (H3N2)
3. B 型 : B/Massachusetts (マサチューセッツ) /02/2012 (山形系統)
4. B 型 : B/Brisbane (ブリスベン) /60/2008 (ビクトリア系統)

今シーズンのワクチン株は、山形系統であるが、ビクトリア系統の代表として本株も調査対象となった。

[調査結果]

感染防御に有効と考えられる 40 倍 (1:40) 以上の抗体保有状況は以下のとおりであった。

また、80 倍 (1:80) 以上および 160 倍 (1:160) 以上の抗体保有状況も併せて図に示した。

1. A パンデミック型 : A/California/7/2009 (H1N1) pdm09 に対する抗体保有状況

10~14 歳群及び 15~19 歳群では 76.9%、92.0% と高い保有率であった。5~9 歳群、20~29 歳群、40~49 歳群及び 60 歳以上では 52.6%、59.5%、52.0%、53.8% と比較的高い保有率であった。30~39 歳群及び 50~59 歳群で 36.0%、32.0% と中程度で、0~4 歳群では 20.5% と比較的低い保有率であった。

2. A 香港型 : A/New York/39/2012 (H3N2) に対する抗体保有状況

5~9 歳群、10~14 歳群、15~19 歳群、20~29 歳群、40~49 歳群及び 60 歳以上では 89.5%、80.8%、80.0%、69.0%、64.0%、73.1% と高い保有率であった。30~39 歳群及び 50~59 歳群では 52.0%、44.0% で比較的高い保有率であった。0~4 歳群では 20.5% と比較的低い保有率であった。

3. B 型 : B/Massachusetts/02/2012 (山形系統) に対する抗体保有状況

15~19 歳群及び 20~29 歳群では 56.0%、40.5% と比較的高い保有率であった。10~14 歳群では 30.8% と中等度で、30~39 歳群、40~49 歳群及び 60 歳以上では 12.0%、12.0%、11.5% と比較的低い保有率であった。0~9 歳群及び 50~59 歳群では 0%、4.0% ときわめて低い保有率であった。

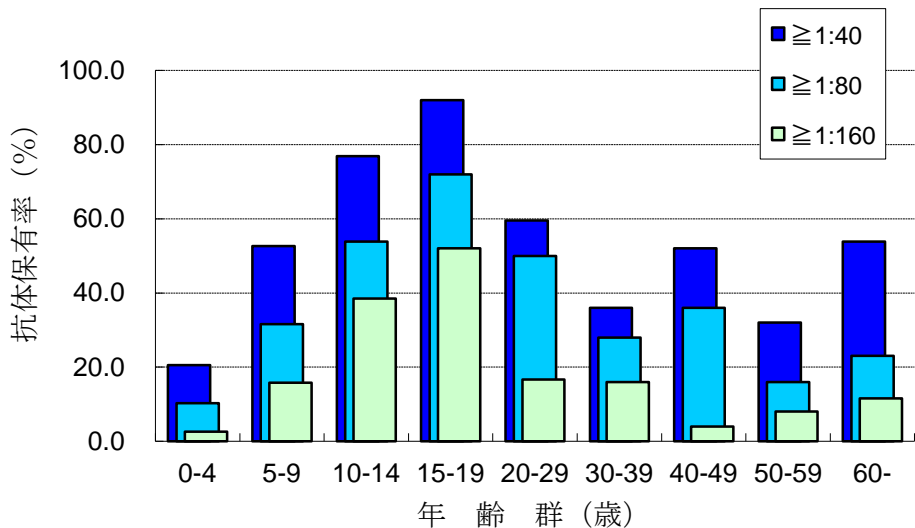
4. B 型 : B/Brisbane/60/2008 (ビクトリア系統) に対する抗体保有率

15~19 歳群では 40.0% と比較的高い保有率であった。40~49 歳群では 32.0% と中等度であった。5~9 歳群、10~14 歳群、20~29 歳群、30~39 歳群、50~59 歳群及び 60 歳以上では 10.5%、23.1%、11.9%、24.0%、12.0%、15.4% と比較的低く、0~4 歳群では 5.1% と低い保有率であった。

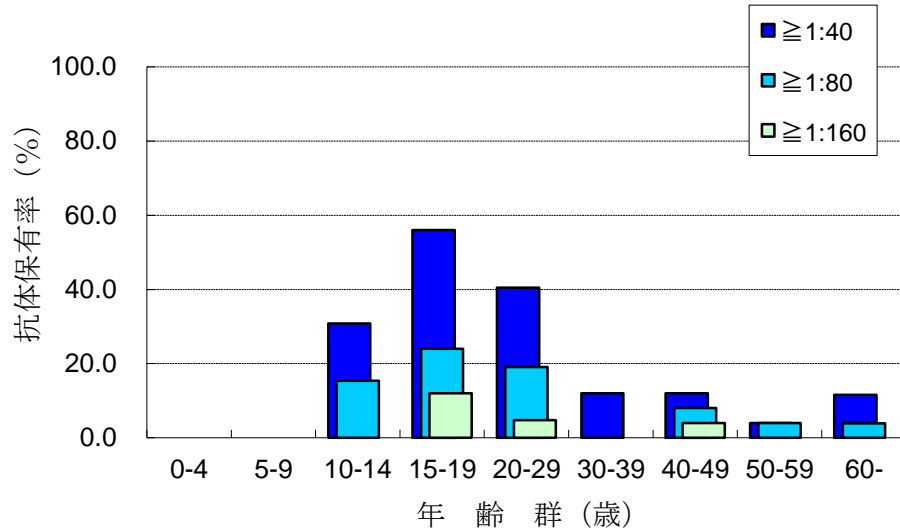
[コメント]

2013/14 シーズンは、2013 年第 52 週 (2013 年 12 月 23 日~29 日) までは AH3 亜型が主流であったが、2014 年第 1 週以降は AH1pdm09 が主流となった。AH1pdm09 が主流の流行は 2010/11 シーズン以来であった。40 倍以上の抗体保有状況を前年度と比較すると、AH1pdm09 では大きな変化はみられず、10~19 歳の各年齢群で 70% と高い抗体保有率であり、全体の抗体保有率は調査株中 2 番目に高い 51.6% であった。AH3 亜型では、前年度と比較して 0~4 歳群を除くすべての年齢群で抗体保有率の上昇がみられ、全体の抗体保有率は調査株中最も高い 61.1% であった。年齢別でみると、5~9 歳群をピークに 5~29 歳群、40~49 歳群及び 60 歳以上で 60% 以上と高く、30~39 歳群及び 50~59 歳群でも比較的高い抗体保有率であった。B 型 (山形系統) では、前年度と比較してほとんどの年齢群で抗体保有率の低下がみられた。年齢別でみると、15~29 歳群では比較的高いが、その他の年齢群では 40% 以下であり、特に 0~9 歳群では 0% であった。B 型 (ビクトリア系統) では、15~19 歳群で比較的高く、その他の年齢群では 25% 以下であった。病原微生物検出情報によると今シーズンは 2014 年第 36~46 週に AH1pdm09 5 件、AH3 亜型 59 件、B 型 (山形系統) 4 件の報告があり、現時点では AH3 亜型の分離・検出報告数が多い。感染症発生動向調査によると定点あたり患者報告数は、2014 年第 45 週 (11 月 3 日~9 日) の速報で 0.22 と全国的な流行の指標となる 1.0 に達していない。しかし九州内では、長崎県で 1.09 と 1.0 を超えており、ついで沖縄県 0.55、大分県 0.5 となっている。本県での報告はないが、本調査で抗体保有率が低かった年齢群においては本格的な流行が始まる前にワクチン接種等の予防対策が必要である。

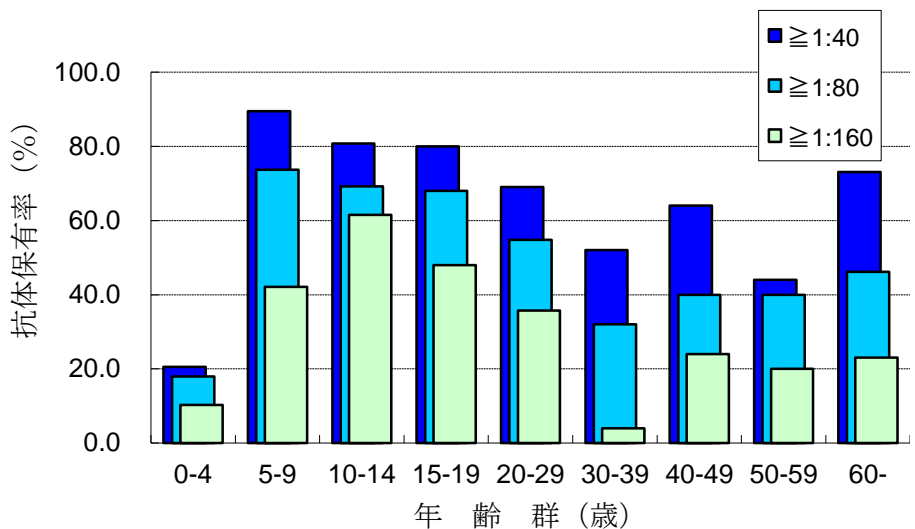
A/カリフォルニア/7/2009 (H1N1)pdm09



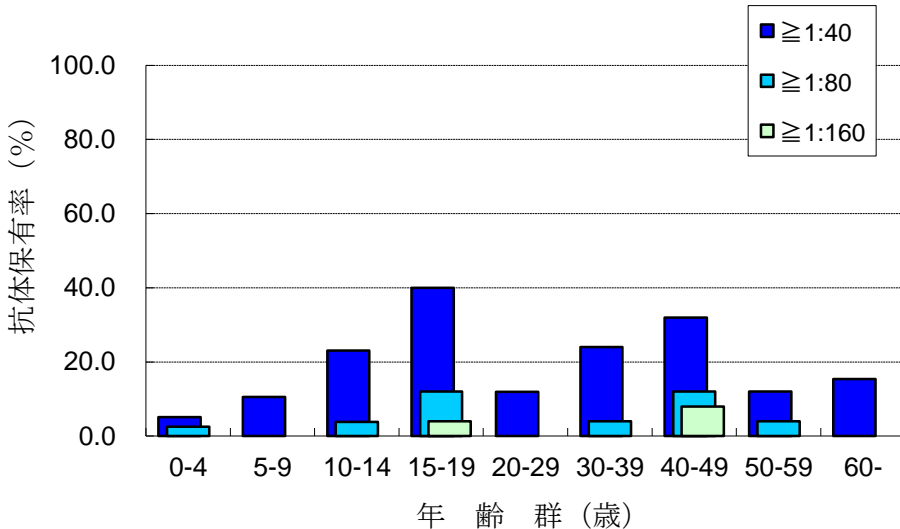
B/マサチューセッツ/02/2012 (山形系統)



A/ニューヨーク/39/2012 (H3N2)



B/ブリスベン/60/2008 (ビクトリア系統)



宮崎県における年齢別HI抗体保有状況(2014/2015シーズン前)